

名古屋城調査研究報告12

資料調査研究報告書 2

十七世紀の名古屋城 —二之丸のすがたをさぐる—

名古屋城調査研究センター 編

2025年3月

いあつち

名古屋城調査研究センターは、考古学・歴史学・美術史などの分野を横断した総合的な調査研究を推進し、特別史跡名古屋城跡の保存・活用を進める機関として、令和元年（二〇一九）に発足しました。このうち文書典籍の分野では、名古屋城やここを拠点とした尾張徳川家に関わる文献調査に着手に取り組んでおり、これらの成果は、展覧会・シンポジウム・刊行物・ホームページ・動画配信など、様々な形で発信してきました。

本年度はそうした調査研究成果の報告および議論の機会として、令和六年十一月十日に名古屋城調査研究センターシンポジウム4「十七世紀の名古屋城―二之丸のすがたをさぐる―」（於イーブルなごやホール）を開催しました。本報告書は、そのシンポジウムにおける記念講演・成果報告・特別報告をもとにした論考、およびパネルディスカッションの記録を収録するものです。本シンポジウムでは、名古屋城の歴史の中でも基礎的事実の整理等の面で特に多くの課題が認識されている、築城以来の約一世紀を取り上げ、その成り立ちと変遷について報告・議論しました。既知の史資料を捉え直すとともに、新出史料を読み解くことで、当該期の名古屋城に関する旧来の見解や位置づけを更新する試みとなりました。

名古屋城の調査研究に関しては未だ多くの課題が残っていますが、本書が今後の調査研究の一助となれば幸いです。

令和七年三月

名古屋城調査研究センター

例言

・本報告書は令和六年十一月十日に、名古屋城調査研究センター主催で開催した「名古屋城調査研究センターシンポジウム4 十七世紀の名古屋城―二之丸のすがたをさぐる―」における記念講演・成果報告・特別報告を基にした論考とパネルディスカッションの記録を掲載した報告書である。

・本報告書の編集は今和泉大（名古屋城調査研究センター学芸員）が担当し、原史彦（同センター副所長補佐）・堀内亮介（同センター学芸員）・小川春子（同センター会計年度名古屋城学芸事務員）が補佐した。

・本報告書所収論考の執筆者は次のとおりである。この他、「シンポジウムの概要」については今和泉大が執筆した。（所属及び肩書は刊行時現在、掲載順）

三浦正幸（広島大学名誉教授）

今和泉大（名古屋城調査研究センター学芸員）

堀内亮介（名古屋城調査研究センター学芸員）

並木誠士（京都工芸繊維大学特定教授・美術工芸資料館館長）

・名古屋城二之丸については、庭園が「名古屋城二之丸庭園」の名称で名勝として指定されていることなどに鑑み、「二之丸」と表記することとする。他城郭を含め、一般的な曲輪としての「二の丸」に言及する際は、「二の丸」と表記することとする。

謝辞

本報告書の刊行にあたり、次記の個人及び機関より資料画像掲載・調査協力についてご高配を賜った。記して厚く御礼申し上げる。

（敬称略、五十音順）

桐原千文

星子桃子

神奈川県立金沢文庫

株式会社エス

公益財団法人 徳川黎明会 徳川林政史研究所

公益財団法人 米沢上杉文化振興財団

皇居三の丸尚蔵館

称名寺

東福寺

名古屋市蓬左文庫

奈良女子大学学術情報センター

米沢市上杉博物館

目次

シンポジウムの概要・・・・	17
類例なき特別な二の丸をもった名古屋城	
十七世紀における二之丸の変遷	三浦正幸・・・・ 21
十七世紀の二之丸御庭造営と改修	今和泉大・・・・ 35
絵画史からみた「中御座之間北御庭惣絵」	堀内亮介・・・・ 53
	並木誠士・・・・ 75
パネルディスカッション・・・・	92
十七世紀名古屋城二之丸関連年表・・・・	104